地域包括ケアネットワーク No.68

新見医師会における在宅医療・介護連携の取り組みについて

新見医師会理事 迫田 秀治

新見医師会は、新見市と保健所などと連携して、出来る限り住み慣れた地域で自分らしい生活が、続けられるように包括的・継続的な在宅医療を供給すべく、新見市在宅医療・介護連携支援センターまんさく（以下「まんさく」という。）を受託し、介護支援専門員１名を配置し在宅医療・介護の連携、調整を行っています。

「まんさく」は、新見市からの委託事業として⑴地域の医療・介護の資源の把握、⑵医療・介護関係者の情報共有の支援、⑶在宅医療・介護連携に関する相談支援、⑷医療・介護関係者の研修があります。また情報連携システム推進事業（市補助事業）も行っています。⑴については、医療・介護・福祉関係の事業所ごとに相談窓口、担当者などをまとめた加除式連携ガイドを作成して各事業所に配布しています。令和元年５月に変更箇所を配布し、PDF化して新見地域在宅医療支援システム研究会ホームページへも公開しています。⑵については、平成24年より地域連携パスである「新見版情報共有書」をインターネットでリアルタイムにやり取りできる「Ｚ連携」に加えて、平成28年より県南の大きな病院とweb（テレビ）会議が可能となっています。

医療と介護のスムーズな情報共有支援の為に「新見版情報共有書」と「認知症用新見版情報共有書」の普及啓発を行っています。⑶については、相談の受付や連携調整を行っています。地域包括支援センターや認知症初期集中支援チームと協力し、地域支援も行っています。

平成30年７月に新見地域入退院支援ルール第２版を、「まんさく」とコメディカルや介護従事者等で構成された「新見地域医療ネットワーク」で作成しました。入退院支援ルールは病院担当者と在宅担当者が確実に連携をとり、多職種と協働して、たとえ担当者が変わっても切れ目のない支援を提供できる情報共有ルールです。「新見地域医療ネットワーク」で、多職種から広く意見を聞き作成されたものです。介護保険サービスのある場合とない場合とに分けて支援ルールが作成されています。⑷については、年に３回の医療・介護の多職種連携会議を開催しています。今年度は、栄養、リハビリ（言語聴覚士の取り組み、嚥下）、フレイルについて80名程度の参加者で活発なグループワークができました。

令和元年５月１日に高梁･新見地域認知症疾患医療連携協議会（新見部会）が発足しました。８月22日第１回新見部会が開催されました。部会委員は、医療・介護・行政・認知症疾患医療センター（こころの医療たいようの丘ホスピタル）などの各機関から参加しています。

高梁・新見地域は、高齢者の割合が全国より高く、認知症の人が増えています。地域で安心して生活できるように、協議会のスローガンである「いつでも、どこでも、認知症高齢者が、必要な時に、必要な所で、必要な支援を受けられる地域づくりを目指す」を実現するためにどういう取り組みをすれば良いか話し合いました。

新見医師会として、市、保健所、社協、医療・介護、公立大学などの関係者が月１回集まり意見交換できる「新見地域在宅医療システム研究会」を開催しています。また、認知症ケア医療連携体制整備事業（県補助事業）も行っており、これからも包括的・継続的な在宅医療を提供できるように、より一層の工夫をしていきたいと思っています。